

## レスポンシブル・ケアマネジメント

レスポンシブル・ケア (RC: Responsible Care) 活動とは、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全 (EHS)」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動で、60を超える国・地域の化学企業が取り組んでいます。日本では1995年に社団法人日本化学工業協会 (JCIA) にて日本レスポンシブル・ケア協議会 (JRCC) が設立され、当社も設立当時より加盟しています。また、2014年に改訂されたレスポンシブル・ケア世界憲章にも署名し、RC活動への取り組みを強化しています。

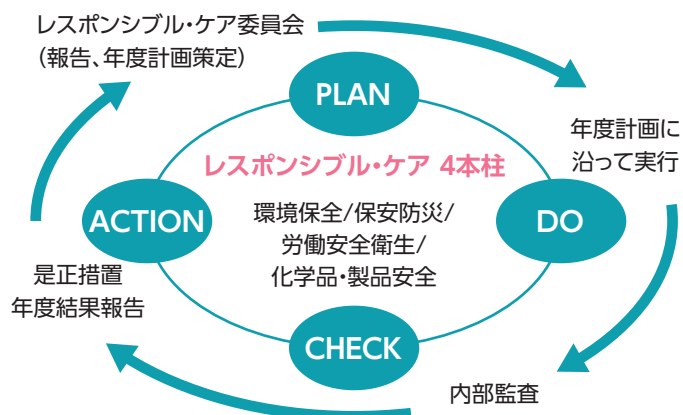
### 日産化学RCマネジメントシステム

当社は、RC中期計画を達成するため、全社にISO14001\*を基本としたRCマネジメントシステムを構築し、PDCAによる目標管理、継続的改善を行っています。

これらの活動を推進する組織として環境安全・品質保証部長を委員長とするRC委員会を年1回定期的に開催し、各箇所の年度活動結果、会社全体の活動総括および次年度のRC目標を討議しています。

結果は、経営会議および取締役会で報告、承認され、次年度のRC目標が決定されます。

\* 環境マネジメントシステムの国際規格、全工場でISO14001の第三者認証を取得。



▲RC委員会: 担当役付役員、生産技術部長、人事部長、購買部長、全事業部長、全工場長、全研究所長。年1回開催。  
(委員長: 環境安全・品質保証部長)

## RCに関する基本方針

当社は、事業活動のあらゆるステージにおいて、EHSに関して優先的に取り組む事項をRCに関する基本方針に定め、関係会社を含むグループ全体に周知徹底を図っています。

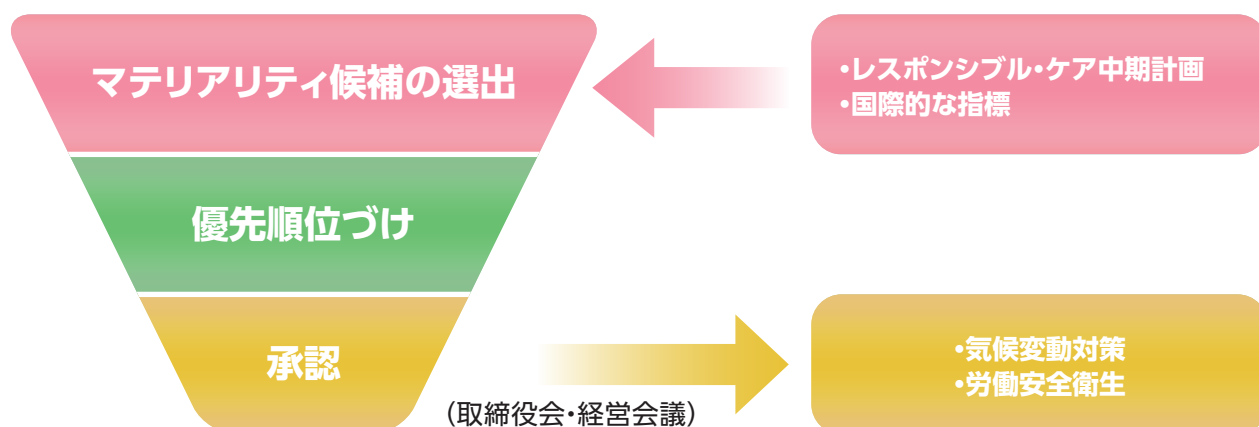
- (1) 製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたりEHSについて継続的改善に努める。
- (2) 事業活動が、人および環境に悪影響を及ぼさないよう管理するとともに、製品の輸送、保管、廃棄に際して、EHSに配慮する。
- (3) 研究開発の段階から、EHS面の検討を行い、より負荷の少ない製品および技術の開発に努める。
- (4) 省資源および省エネルギーを一層推進し、廃棄物の削減およびその有効活用に努める。
- (5) 製品および操業がEHSに及ぼす影響について、行政当局および市民の関心に留意し、正しい理解が得られるように必要な情報を開示し、対話に努める。
- (6) 科学的知見をベースとしたリスク評価およびリスク管理の一層の充実を図り、化学物質管理の強化を推進する。
- (7) 法律・基準を遵守するとともに、自主的な取り組みの推進により、EHSのさらなる向上に努める。
- (8) EHSに係る活動に対する、国内外のステークホルダーの期待に一層応えるために説明責任を果たす。

## RCにおけるマテリアリティの選定

当社は、EHSの取り組みを強化するため、RCにおいて重点的に取り組むべきマテリアリティとして、「気候変動対策」「労働安全衛生」を選定しました。

選定にあたり、当社RC中期計画と、ISO26000、国連グローバルコンパクト10原則、SDGs、The Global Risks Report 2017などの国際的な指標とを照らし合わせてマテリアリティ候補を選出し、ステークホルダーの優先度と当社の重要度から優先順位づけにより上記2項目に絞り、取締役会・経営会議で承認を得ました。

今後、PDCAによる目標管理・評価を実施するとともに、当社事業活動や社会の変化など必要に応じて見直しを行います。



## RC中期計画(2016-2021年度)の推進

レスポンシブル・ケアコード	中期計画(2016-2021年度)	2016年度計画
環境保全・気候変動対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー原単位*1改善、2021年度までに2011年度比20%改善</li> <li>温室効果ガス(GHG)排出量削減、原単位*2改善</li> <li>排出量: 中計期間(2016~2021年度)の総排出量を、前中計期間(2010~2015年度)比10万トン削減</li> <li>原単位: 2021年度までに2011年度比20%改善</li> </ul> <small>*1 エネルギー使用量/売上高 *2 排出量/売上高</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化設備更新による省エネルギー化</li> <li>廃溶媒の燃料化推進</li> <li>アンモニア原料をナフサから液化天然ガスへ変更(GHG 排出量1万トン削減)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物排出量削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物リユース・リサイクルの促進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSRサプライチェーン・マネジメント(グリーン調達)システムの確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要取引先へのEHS監査の実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性保全への取り組み強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性行動指針に基づく継続的活動</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型製品の開発・販売促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型製品の販売促進</li> </ul>
保安防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全文化醸成と保安力強化</li> <li>製造、工事および研究の事前評価システムの有効性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全文化評価方法の最適化</li> <li>事前評価におけるリスクアセスメントの高度化</li> </ul>
労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISO45001を基盤とした労働安全衛生マネジメントシステムの確立</li> <li>休業災害ゼロの達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備改善による労働安全の向上</li> <li>労働安全新聞の発行</li> <li>RC監査における労働安全衛生の点検強化</li> </ul>
化学品・製品安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質のライフサイクルを通じたリスクベースの管理推進</li> <li>人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する先端的な研究への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性データに基づく化学物質リスク評価および安全対策の社内標準化</li> <li>化学物質安全性要約書の公開推進</li> <li>日本化学工業協会LRI活動*3への参画</li> </ul>

\*3 Long-range Research Initiative: 化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み

## RC監査

RC監査とは、レスポンシブル・ケア監査指針に基づき環境安全・品質保証部が、工場、研究所、関連会社でのRC活動を確認する活動です。各箇所が行う内部監査やパトロールに加え、各箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているかを実際にチェックします。環境安全・品質保証部は、このRC監査において、EHSに係る顕在化した問題、または潜在的なリスクがあれば、明確に示して改善を促しています。2016年度は、のべ43回RC監査を実施しました。

### TOPICS

#### 安全監査

環境安全・品質保証部が現場における作業を監視することにより不安全箇所や不安全行動を予防的に捉える安全監査を、災害の多い箇所や重大災害発生箇所を選んで5カ所で行いました。今後も、作業中の安全確認に特化した監査を適宜実施します。

達成評価 ☆☆☆=100~70%、☆☆=70~30%、☆=30%以下		2017年度計画
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油換算エネルギー使用量微増(99.4千kL。前年比約0.6千kL増) エネルギー原単位 2011年度比16.9%改善</li> <li>・廃溶媒の燃料化は計画通り進行中</li> <li>・アンモニア原料の転換により、GHG排出量を3.0万トン削減(全体の6%程度削減に相当)</li> <li>・環境データの管理システムであるEco Trackシステムの導入(2017年度から運用開始)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の能力向上、老朽化設備更新等による省エネルギー化</li> <li>・メラミン等での燃料転換による、さらなるGHGの削減</li> <li>・硝酸プラントより発生するN<sub>2</sub>Oの削減</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全工場の産業廃棄物排出量、有価物のデータを確認</li> <li>リサイクル率を定義し、改善への準備を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル率の目標設定</li> </ul>
☆☆☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要原料委託先等のEHS監査を実施</li> <li>・購買方針のCSR推進に則した改定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EHS監査の継続実施</li> <li>・サプライチェーンのCSR対応の確認</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人「黒浜沼周辺の自然を大切にする会」への支援、情報共有実施(生物科学研究所)</li> <li>・藤前干潟クリーン作戦への参加(名古屋工場)</li> <li>・ピオパークの運営(富山工場)</li> <li>・ヒメコマツ系統保存サポーター(袖ヶ浦工場)等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性行動指針に基づく活動の推進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディーゼル車の排ガス処理用アドブルー®生産拠点の増加</li> <li>JISマーク認証更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型製品の開発と調査継続</li> </ul>
☆☆☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全文化評価の関係会社への拡大</li> <li>評価解析にて、問題がある部門や認識を改善テーマとして設定</li> <li>・化学品のリスクアセスメントを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前評価指針の見直し、改定</li> </ul>
☆☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備更新等による転倒災害の減少</li> <li>・労働安全新聞を発行</li> <li>・休業災害1件。派遣等協力会社員が被災したケースが2件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全への設備投資の実行(350百万円/3年)</li> <li>・協力会社への労働安全状況の確認、指導</li> </ul>
☆☆☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価および安全対策の社内標準の整備</li> <li>・尿素安全性要約書を公開</li> <li>・動物代替法等で参画。国際化学工業協会協議会(ICCA) LRI-ワークショップに参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価の運用の確認</li> <li>・化学製品安全性要約書の公開継続</li> </ul>

